

11月の新着本

11月9日(土) 貸し出し開始

【一般図書】

天保十四年のキャリーオーバー 【今月のスタッフおすすめ本】	五十嵐 貴久	悪の奉行・鳥居耀蔵が溜め込んだ百万両を奪い取れ！江戸の富くじの裏で仕掛けられた、壮絶な騙し合いの行方とは…。痛快時代小説。
罪の轍	奥田 英朗	東京オリンピックを翌年に控えた1963年、浅草で男児誘拐事件が発生した。事件を担当する捜査一課の落合昌夫は、子供達から「莫迦」と呼ばれる北国訛りの男の噂を聞く…。世間から置き去りにされた人間の孤独を描く、社会派ミステリの真髓。
祝祭と予感	恩田 睦	入賞者ツアーのはざままで亜夜とマサルとなぜか塵が二人のピアノ恩師・綿貫先生の墓参りをする「祝祭と掃苔」。芳ヶ江国際ピアノ…ピアノの巨匠ホフマンが幼い塵と初めて出会った永遠のような瞬間「伝説と予感」。全6編
肉弾	川崎 秋子	心の通わぬ父子は、森へ入っていく。そこが獣の領域と知りながら…。生きることは業なのか、喰らうことは罪なのか。北の大地で生存を賭けた問いが始まる。圧倒的なスケールで描く、肉体と魂の成長物語。
スワロウテイルの消失点	川瀬 七緒	発疹、出血、痛み。腐乱死体の解剖に立ち会っていた法医昆虫学者・赤堀らが原因不明の症状に見舞われた。だが彼女は意外な見解を示し、事件解決の糸口を見つけ出す。警察ミステリー「法医昆虫学捜査官」シリーズ。
図書室	岸 政彦	四十年前の冬の日、同い年の少年と二人で私は世界の終わりに立ち会った。定職も預金もある。一人暮らしだけど不満はない。思い出されるのは小学生の頃に通った古い公民館の図書室のこと。社会学者の著者の自伝エッセイを併録。三島賞候補作。
待ち遠しい	柴崎 友香	離れの一軒家で一人暮らしを続ける北川春子39歳。母屋に越してきた、夫を亡くしたばかりの63歳、青木ゆかり。裏手の家に暮らす現実的な今どきの新婚25歳、遠藤沙希。年代も性格もまったく異なる3人の出会いから始まった“ご近所付き合い”の行方は…。
119	長岡 弘樹	雨の翌日、消防司令の今垣は川べりを歩く女性と出会う…(「石を拾う女」)。西部分署副署長の吉国は殉職した息子のお別れの会で思い出を語るが…(「逆縁の午後」)。消防署を舞台に描く9つの連作短編。
百の夜は跳ねて	古市憲寿	「格差ってのは上と下にだけあるんじゃない。同じ高さにもあるんだ」。僕は今日も高層ビルの窓を拭く。頭の中に響く声を聴きながら。そんな時ふとガラスの向こうの老婆と目が合い…。社会学者でもある著者の賛否両論を巻き起こした芥川賞候補作。
生のみ生のままで(上・下)	綿矢 りさ	恋人と出かけたリゾートで、逢衣は彼の幼なじみと、その彼女・彩夏に出逢う。芸能活動をしているという彩夏は、美しい顔に不遜な態度で、不躰な視線を寄せずばかりだったが、4人で行動するうちに打ち解けてゆく。女性同士の鮮烈なる恋愛小説。

☆ NHKテレビテキスト「きょうの料理11月号」は閲覧できます。

☆ 児童図書・絵本は、別途掲示しています。

なお、12月新着本貸出日(12月14日)から貸出いたします。

